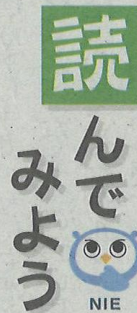




新聞をめくり、紙面の構成を確認する光星高校の生徒たち

記事に触れ 考えて 光星高で本紙出前授業

八戸市の八戸学院光星高校（中村良寛校長）は25日、東奥日報社から講師を招き、本紙を教材に活用した出前授業を行った。3年生62人が、紙面の読み比べなどを通じて、自分なりの読み方を探究した。



同校の「時事研究」の授業の一環で、本年度は2クラスが新聞を使った授業を7月16日まで4回ずつ行う。初回は三浦博史販売局専任局長が講師を務めた。

三浦局長は、記事を読んで自分の考えを持つことや、ネットやテレビ、複数の新聞と比較して記事を読み、異なる視点で物事をとらえることなど、進学や就職に役立つ読み方をアドバイスした。

大坂菜鈴さん(17)は「同じニュースでも、新聞社によって書き方が違うのが面白い」、畑中士道さん(17)は「見出しは10文字前後で読者に分かりやすくまとめられている、工夫が詰まっていることが分かった」、成田花綾さん(18)は「面接で気になる話題を質問されることもあると思うので、新聞を読んで興味のある記事を探したい」と話した。

（小泉結香）